



写真5 乾いた寝わらをたっぷり入れる



写真6 前膝の汚れは敷料が汚れているサイン



写真7 スノコは下を掃除できるように取り外しやすいものにする

敷料が汚れない分、スノコの下が汚れています。アンモニアの発生や、細菌・ハエの増殖を防ぐためには、スノコ下のこまめな掃除が必要です(写真7)。

(2) ほ乳器具の管理

ほ乳器具は養分たっぷりのミルク（生乳または代用乳）を扱うこともあり、細菌が増殖しやすいものの一つです。直接口に入れるものですから、衛生的なきちんとした管理をしなければ菌を体の中に入れてしまうことにつながります。

ア 洗浄方法

ほ乳後の器具はミルクやよだれなどで思った以上に汚れています。しっかり洗浄し、汚れの付きにくい状況を保つことが必要です。

- ①洗剤を使って洗う。お湯だけでは汚れは落ちません
- ②汚れの落ちにくい場所は専用ブラシを使用(図2、写真8)
- ③洗浄後は逆さ保管でしっかり乾燥(写真9)

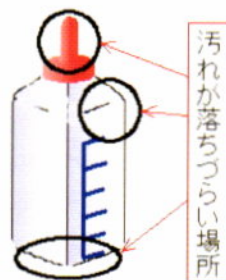


図2 ほ乳瓶の汚れやすい部分

汚れが落ちづらい場所

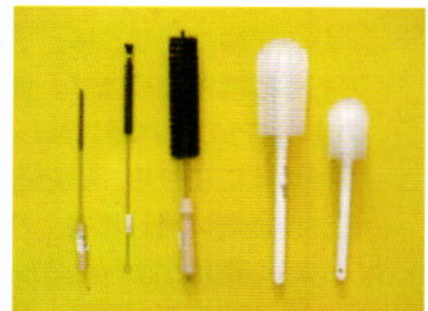


写真8 専用の洗浄ブラシ

イ 部品の劣化に注意

ゴム製品は使わなくとも徐々に劣化していきます。特に、「乳首」は直接口に入れる部品です。劣化しひびが入る前に新しいものと交換してください。



写真9 ほ乳瓶は逆さにして保管

ウ 自動ほ乳装置の場合

自動ほ乳装置は、同じ乳首を複数の牛が使い回します。取扱説明書に記載されている洗浄方法を確実に実行してください。洗浄システムが正常に動作していることを定期的を確認することも忘れずに。(洗浄ホースの詰まりや殺菌液が出ていることの確認)(写真10)



写真10 ニップルの自動洗浄装置は定期的な動作の確認を！

3 病原体の侵入を防ぐ ～体内に病原体を入れない～

子牛の周りで病原体を増やさないことと同時に、子牛の口から病原体が入らないようにすることも重要です。注意すべきは、①直接口に触れるほ乳機材、②移行乳の汚染、そして③牛どうしのなめあいの3つです。

ほ乳機材は、前述しましたので、残り2つをみていきましょう。

(1) 子牛に与える移行乳の管理

多くの農場では生後数日間～1週間程度、出荷できない母牛の乳（移行乳）が子牛に与えられています。「出荷しない乳だから・・・」と管理がおろそかになっていないでしょうか？生後まもない子牛に与える乳は、出荷乳と同等もしくはそれ以上の衛生的扱いが必要です。

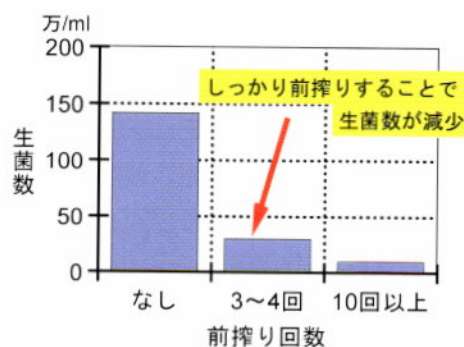


写真11 きちんと洗浄されたバケットミルカー

ア 正しく管理されたバケットミルカーで搾る

- ①乳房炎乳を搾った後に移行乳を搾らない
- ②洗剤の温度・濃度を守り、汚れやすい箇所は手洗いで確実に正しく洗浄する(写真11)
- ③定期的な分解洗浄、部品交換(※)も忘れずに(写真12,13)

※ライナーゴム、ショートミルクチューブ、ロングミルクチューブなど、劣化した部分に汚れが溜まります



(十勝地域農業技術支援会議預託哺育プロジェクトより、2008)

図3 初乳中の生菌数

イ 正しい搾乳手順を守る

- ①乳頭はきれいなタオルで先端までしっかり拭く
- ②前搾りは乳頭ごとに、3～4回以上行う(図3)

ウ 保管中は異物混入を防ぐ

- ①保管するバケツにはフタをする(写真14)
- ②処理室など保管場所への動物の侵入を防ぐ（猫や犬、鳥などと移行乳を接触させない）

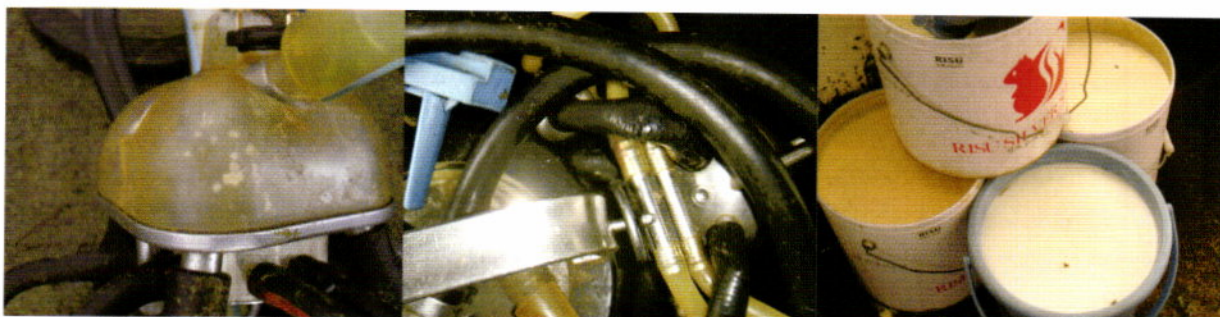


写真12 汚れたクロー

写真13 劣化のひどいショートミルクチューブ

写真14 フタをしていない移行乳